

2008年2月1日
毎日新聞掲載

栗原市が実験地に コ・モビリティ 慶応大と相互協力協定

どんな人でも遠隔操

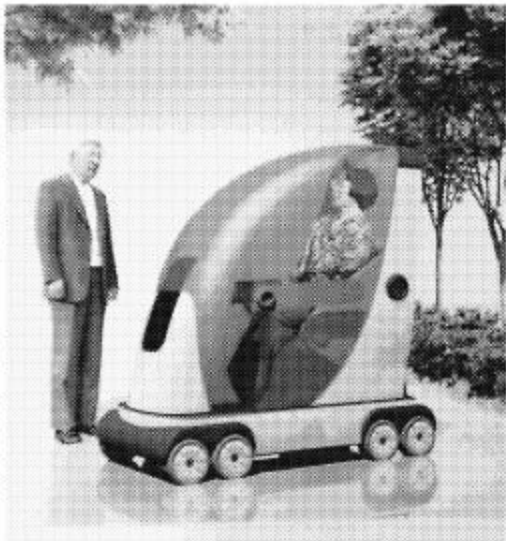
作で地域内を安全に行
き来できる個人移動シ
ステム「コ・モビリテ
ィ」を研究する慶応大
は31日、栗原市鶯沢地
区を実証試験地とし、
実用化に向け相互協力
する協定を同市と交わ
した。今夏から2年間、
4台の試作ビークル
(電気自動車)を持ち
込み、さまざまなテス
トをする。10〜15年後
の実用化を目指す。

本記事は毎日新聞の許可を得
て掲載しています。

川嶋弘尚同大コ・モ
ビリティ社会研究セン
ター長(理工学部教授)
と佐藤勇市長が協定書
にサインした。ビーク
ルは1〜2人乗りで、
GPS(全地球測位シ
ステム)を利用する。
子供や車の運転が困難
な高齢者でも、自動制
御で自宅から地域内の
病院や商店に出掛けら
れるようにする仕組
み。乗っている人は数
回パネルタッチする程
度ですむ。

過疎化、高齢化で移
動手段がなくなった地
域で、交通弱者の気軽
な足となり、地域交通
システムの変革と新し
い形のコミュニケーション
を作る潜在力を秘める
という。家庭電源から
の充電1回で50キロ前後
の走行性能を確保す
る。試験拠点は鶯沢の
市研修施設「マインプ
ラザ」。遠隔操作など
のため、同大側の研究
者たちが現地入りす
る。

研究には文部科学省
と大手企業5社が助成
金の拠出などでかわわ
る。栗原市は他の候補
地の青森市や東京都三
鷹市より名乗りが遅れ
たが、地域実情が好適
と、最初に試験地に選
ばれた。佐藤市長は「エ
コタウン鶯沢にふさわ
しい取り組みで、試験
をしっかり支えたい」
と話す。【小原博人】



1人乗り電気自動車のイメージ図―慶応大提供